

介護職員初任者研修シラバス

研修事業者名 株式会社 セラフィム

科目及び研修時間数		9 介護における尊厳の保持・自立支援（43時間）		
特 徴		<ul style="list-style-type: none"> ・介護技術の根拠となる人体の構造や機能に関する知識を習得し、安全な介護サービスの提供方法等を理解し、基礎的な一部または全介助等の介護について学ぶ。 ・尊厳を保持し、その人の自立及び自律を尊重し、持てる力を発揮してもらいながらその人の在宅・地域等での生活を支える介護技術や知識を習得する。 		
目 標		<ul style="list-style-type: none"> ・介護実践に必要なこととからだのしくみの基礎的な知識を学び、具体的な身体の各部の名称や機能等が列挙できるようになる。 ・利用者にとっての生活の充足を提供し、かつ、不満足を感じさせない技術を習得する。 ・「死」に向かう生の充実と尊厳ある死について考えることができるようになる。 		
項 目	時間	内 容		
		講 義	演 習	実 習
I 基本知識の学習 (3時間)	1	<ul style="list-style-type: none"> ・理論に基づく介護(ICFの視点に基づく生活支援、我流介護の排除) ・法的根拠に基づく介護 	/	/
	1	<ul style="list-style-type: none"> ・学習と記憶の基礎知識 ・感情と意欲の基礎知識 ・自己概念と生きがい ・老化や障がいを受け入れる適応行動とその阻害要因 ・こころの持ち方が行動に与える影響 ・からだの状態がこころに与える影響 		
	1	<ul style="list-style-type: none"> ・人体の各部の名称と動きに関する基礎知識 ・骨・関節・筋に関する基礎知識 ・ biomechanics の活用 ・中枢神経系と体性神経に関する基礎知識 ・自律神経と内部器官に関する基礎知識 ・こころとからだを一体的に捉える ・利用者の様子の普段との違いに気づく視点 		
	小計	3		

項 目		時間	内 容		
			講 義	演 習	実 習
II 生活支援技術の学習 (35時間)	(4)生活と家事	3		・家事と生活の理解、家事援助に関する基礎的知識と生活支援(生活歴、自立支援、予防的な対応、主体性・能動性を引き出す、多様な生活習慣、価値観)	
	(5)快適な居住環境整備と介護	3		・快適な居住環境に関する基礎知識、高齢者・障がい者特有の居住環境整備と福祉用具に関する留意点と支援方法(家庭内に多い事故、バリアフリー、住宅改修、福祉用具貸与)	
	(6)整容に関連したところからだのしくみと自立に向けた介護	3		・整容に関する基礎知識、整容の支援技術(身体状況に合わせた衣服の選択、着脱、身じたく、整容行動、洗面の意義・効果)	
	(7)移動・移乗に関連したところからだのしくみと自立に向けた介護	6		・移動・移乗に関する基礎知識、さまざまな移動・移乗に関する用具とその活用方法、利用者、介助者にとって負担の少ない移動・移乗を阻害するところからだの要因の理解と支援方法、移動と社会参加の留意点と支援(利用者と介護者の双方が安全で安楽な方法、利用者の自然な動きの活用、残存能力の活用・自立支援、重心・重力の働きの理解、ボディメカニクスの基本原理、移乗介助の具体的な方法(車いすへの移乗の具体的な方法、全面介助でのベッド・車いす間の移乗、全面介助での車いす・様式トイレ間の移乗)、移動介助(車いす・歩行器・つえ等)、褥瘡予防)	
	(8)食事に関連したところからだのしくみと自立に向けた介護	4		・食事に関する基礎知識、食事環境の整備・食事に関連した用具・食器の活用方法と食事形態とからだのしくみ、楽しい食事を阻害するところからだの要因の理解と支援方法、食事と社会参加の留意点と支援(食事をする意味、食事のケアに対する介護者の意識、低栄養の弊害、脱水の弊害、食事と姿勢、咀嚼・嚥下のメカニズム、空腹感、満腹感、好み、食事の環境整備(時間・場所等)、食事に関する福祉用具の活用と介助方法、口腔ケアの定義、誤嚥性肺炎の予防)	

項目		時間	内 容		
			講 義	演 習	実 習
II 生活 支援 技術 の 学 習	(9)入浴、清潔保持に関連したところからのしくみと自立に向けた介護	4		<p>・入浴、清潔保持に関連した基礎知識、さまざまな入浴用具と整容用具の活用方法、楽しい入浴を阻害するところからの要因の理解と支援方法(羞恥心や遠慮への配慮、体調の確認、全身清拭(身体状況の確認、室内環境の調整、使用物品の準備と使用方法、全身の拭き方、身体の支え方)、目・鼻腔・耳・爪の清潔方法、陰部清掃(臥床状態での方法)、足浴・手浴・洗髪)</p>	
	(10)排泄に関連したところからのしくみと自立に向けた介護	4		<p>・排泄に関する基礎知識、さまざまな排泄環境整備と排泄用具の活用方法、爽快な排泄を阻害するところからの要因の理解と支援方法(排泄とは身体面(生理面)での意味、心理面での意味、社会的な意味、プライド・羞恥心、プライバシーの確保、おむつは最後の手段/おむつ使用の弊害、排泄障害が日常生活上に及ぼす影響、排泄ケアを受けることで生じる心理的な負担・尊厳や生きる意欲との関連、一部介助を要する利用者のトイレ介助の具体的方法、便秘の予防(水分の摂取量保持、食事内容の工夫/繊維質の食物を多く取り入れる、腹部マッサージ))</p>	
	(11)睡眠に関連したところからのしくみと自立に向けた介護	6		<p>・睡眠に関する基礎知識、さまざまな睡眠環境と用具の活用方法、快い睡眠を阻害するところからの要因の理解と支援方法(安眠のための介護の工夫、環境の整備(温度や湿度、光、音、よく眠るための寝室)、安楽な姿勢・褥瘡予防)</p>	
	(12)死にゆく人に関したところからのしくみと自立に向けた介護	2		<p>・終末期に関する基礎知識とところからのしくみ、生から死への過程、「死」に向き合うところの理解、苦痛の少ない死への支援(終末期ケアとは、高齢者の死に至る過程(高齢者の自然死(老衰)、癌死)、臨終が近づいたときの兆候と介護、介護従事者の基本的態度、多職種間の情報共有の必要性)</p>	
	小計	35			

項 目	時間	内 容		
		講 義	演 習	実 習
Ⅲ 生活支援技術演習 (5時間)	(13)介護過程の基礎的理解	2		・介護過程の目的・意義・展開、介護過程とチームアプローチ
	(14)総合生活支援技術演習	3		・生活の各場面での介護について、ある状態像の利用者を想定し、一連の生活支援を提供する流れの理解と技術の習得、利用者の心身の状況にあわせた介護を提供する視点の習得を目指す。 (事例の提示→こころとからだの力が発揮できない要因の分析→適切な支援技術の検討→支援技術演習→支援技術課題(一事例1.5時間程度で上のサイクルを実施する) 事例は高齢(要支援2程度、認知症、片麻痺、座位保持不可)から2事例を選択して実施)
	小計	5		
合計	43			

使用テキスト	介護職員初任者研修テキスト 第4分冊「技術と実践」
使用する機器・備品等	モーターベッド、ベッドキャスター、マットレス、サイドレール、オーバーテーブル、ベッドサイドテーブル、エアーマット、車椅子(自走用)、車椅子、車椅子(リクライニング)、車椅子付属品、四輪歩行器、吸引器、ボックスシーツ、シーツ、横シーツ、防水シーツ(横)、ベッドパッド体位交換クッション、すくいやすい皿、体位交換クッション、ノンスリップマット、食事用エプロン、ドライシャンプー、浴用手袋、らくらく箸、体位交換クッション、ビースパット(マット)、吸引ホース、らくらく箸、まもっ手、丸型ハンドルスプーン、カテーテル、ポータブルトイレ(肘掛付き)、ポータブルトイレ(取り外し)、ボックスシーツ、紙パンツ、テープ止め紙オムツ、尿取りパット、平オムツ、差し込み便器、女性用尿器、男性用尿器、消臭剤、男パット、簡易浴槽、浴槽台、シャワーチェア、バスボード、滑り止めマット(大)、滑り止めマット(小)、浴槽手すり、浴用手袋、入浴キャリアベルト、湯温計、クッション、バスタオル、タオル、プラスチック手袋、ハミングット、ドライシャンプー、義歯洗剤・容器、うがいキャッチ、吸い飲み、車椅子(介助用)、杖(T字)、杖(ラージ)、杖(スモール)、アイマスク、まもっ手
備考	